

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2692700020
法人名	医療法人社団 外松医院
事業所名	医療法人社団 外松医院 ハーモニーグループホーム
所在地	京都府舞鶴市字竹屋98番地の1 (電話) 0773-64-0936

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年1月26日	評価確定日	平成20年3月4日

【情報提供票より】(平成19年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年3月22日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 45 人, 常勤換算 8.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1300 円			

(4) 利用者の概要(平成19年12月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	外松医院	舞鶴共済病院
---------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームハーモニーは古い町並みの一角にあり、窓の外には川が流れ素晴らしいロケーションとなっています。川面に夕焼けが映るとそれは一段と素晴らしいものとなるようです。ハーモニーという名前の通り音楽療法にも力を注いでいます。リビングはとて広く、オープンキッチンとなっており料理のおいしそうな匂いが漂っています。開設後1年足らずですが、向上心あふれるホームです。「和」という理念を掲げ、その意味を職員全体が考えながら、様々な思いを持ち現状に満足せず少しでも上を目指していこうという思いが感じられます。また職員は常に利用者の立場にたって本人の思いと権利を主張しながらサービスの提供に努めています。常により良いサービスを提供するため、同業者との交流、研修、会議等にも積極的に取り組んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初回の外部評価です。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価を受けることによって職員がそれについての意義を理解できるよう、職員全体の意見を集約し管理者が記入をしました。常に現状に満足せず、謙虚に意見に耳を傾け、さらに入居者の満足を高めようと努力する姿勢が感じられます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	② 運営推進会議では、ホームからは、施設の現状報告や認知症の話等をし、参加者の方々から様々な意見や、情報をもらえる機会とされています。また意見を持ち帰り職員会議において検討するなど、サービスの向上にむけて積極的に取り組み、地域とのつながりを強めたいと考えられています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	③ 毎月、請求書の送付時には入居者の様子や、状態を書いた個人ごとの連絡票を同封しています。様々な、意見や要望に応えられるように、家族の訪問の際には、話し合う時間を多く持つようにされています。ホームの玄関には意見箱も設置されており、相談窓口も明確にされています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	④ 町内会にも入り様々な行事に参加しています。また、施設で行う餅つき大会や花火大会などにも老人会長や地域住民、子供達の参加があります。さらに認知症を理解して貰うために、地域住民に対してアクションをおこし積極的に交流を深めていこうと考えられています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和」という理念が玄関に大きく掲示されている。その人らしく「生きる」、人と人のつながり「和」を大切に地域を心でつなぐホームを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、理念を唱和されており、ケアをする場面で職員全体が再認識できるよう、实际的に指導を行っている。また、決定事項については理念に基づいて決定する努力をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも所属しており、老人会長の協力もあり施設での敬老祝賀会や餅つき大会への参加もあった。また地域の子供達と花火大会などしながら地域との交流に向けて努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員全員に意見を聞き管理者が集約し記入をした。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催される運営推進会議には地域民生委員・老人会長・家族会会長・行政の担当者等が出席をし、施設の現状報告・意見交換を行っている。		

ハーモニーグループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何かの折に連絡をとるようにしている。	○	運営推進会議の報告書を届けるなど直接、市町村と話す機会を設け情報収集の場として活用される事を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りの会報の他、月に1回連絡票を作成し、行事などの写真と体調や暮らしぶりの現状を記録し、金銭出納表と合わせて、家族に送付されている。面会も頻繁にあり、状況を報告する機会がたくさんある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱が玄関におかれており、家族会の集まり、面会時などに要望を聞く機会を設けている。また、ホーム側や行政の相談窓口も文書の中に明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者として働きやすい環境を意識している。出来る限り職員の異動は避け、離職者が出ないよう職員同士の日々のコミュニケーションも大事にしている。今後、子育て中の職員の支援もしていく予定である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月に1回の予定でデイサービスの職員と研修をしている。今後は月に1回実施する予定である。また職員交換研修の参加予定もある。	○	内部・外部研修とも、さらに積極的に参加し、伝達研修においても、職員が順番に講師をするなどして、研修内容を職員間で共有する事が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都北部グループホーム連絡会に所属し、交流や研修に参加し情報交換している。今後も積極的に交流を図っていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービス利用者の入居決定後、折にふれて声掛けをしたり来て頂いたりしながら入居者との関わりを多く持ち、馴染みの関係が出来るよう配慮している。事前の見学、体験入居の体制もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の献立作成や料理・盛り付けを分担して行ったり、絵画・編み物・買い物等、できることに参加してもらい、一人ひとりの人格を大切にしながら職員が入居者から学べる場面を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントの他に独自の記録用紙を作成しており、日々の暮らしの中から、気づいた時に記録をしている。また面会時等に家族に聞いたり、直接書いて貰ったりしている。その他にも申し送り簿・介護記録などにも書き込み、職員全体で共有している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎朝のミニカンファレンス、毎月の職員会議等で話し合いをしている。家族については、面会時・電話等で要望を確認し介護計画に反映させるよう心がけている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは適宜おこなわれている。		

ハーモニーグループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期的な通院の付き添いや急変時の受診などの支援をしている。	○	通院の他にも多種多様な柔軟な生活の支援をし、事業所としてのサービスをフルに提供される事を期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の往診があり、それ以外にも必要に応じて往診して貰えるなど、24時間の医療バックアップ体制がある。希望に応じて今までのかかりつけ医を受診する場合の支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族の思いを聞き取り、重度化に伴う意志確認をしている。看取り指針については施設における看取り介護の考え方の説明をし、同意を得ている。また入所時と考えが変わった場合は家族と相談する機会を設けている。母体の法人には訪問看護サービスもあり、管理者・看護師等で組んでいる医療チーム体制が整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合った言葉がけや、誇りを損なわない言葉遣いに細心の注意を払うよう努めている。また、個人情報の記録物については事務所の戸棚に収納している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の希望や、その人の言動を受け止め、入居者一人ひとりの生活リズムに合わせて生活できるように支援している。外出や入浴時間は可能な限り本人の希望に添ったペースになるよう柔軟に対応している。		

ハーモニーグループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の意見を取り入れながら、職員がその都度たてている。準備・後片付け等については、入居者の負担にならない程度に参加を促している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はいつでも出来る体制がとられており、夜間入浴についても、希望があれば可能である。また、デイサービスの大きなお風呂を利用し温泉気分を味わう取り組みについても計画中である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	何かの機会にその人の力を発見することが多々あり、記録に残しそれぞれの役割事・楽しみ事を把握している。食事作り・後片付け・洗濯物たたみの他にも、畑づくりなども出来るよう選択肢を増やしていく予定である。また、楽しみの一つとして、2階にあるデイサービスのイベントに参加したり、すごろくを作るなどレクリエーションの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ・買い物など、それぞれの希望に応じて戸外へ出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	車の往来が多いが、センサー把握をしながら日中は鍵を掛けずに、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による夜間想定での避難訓練を行い、消火器の取扱についても学習をした。また、ホームの裏側が川になっているため、職員は常に危機感をもちながら緊急時には早めの対応が出来るようにという思いを持っている。	○	地域の消防団に声をかけ、隣近所の住民の協力を得ながらの避難訓練も今後の課題として検討される事が望まれる。

ハーモニーグループホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立についてはデイサービスの栄養士に月1回のチェックを受け、食事摂取量についても記録し、栄養のバランスに気をつけている。水分摂取量については平均して1000cc以上はとれるよう心がけており、便秘・熱などで必要な場合は、記録している。また状態によって、食事形態の変更についても柔軟に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感あふれるホームで、リビングは大きな窓からの採光で非常に明るく、居心地の良い空間作りがなされている。玄関には、季節感溢れる舞鶴の写真が掛けられており、四季ごとに掛け替えられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・カーペット等それぞれに、自分の思いのものを持ち込まれ一人ひとりの好みや生活スタイルに合わせた空間づくりに配慮されている。		